

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2023年度 第3回 FD・SD委員会
議事次第

日時：2023年11月29日（水）10:00～12:00

開催場所：オンライン（Zoom）

委員校：甲南大学（委員長校）、神戸市看護大学（副委員長校）

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学

神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学

神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部

神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部

姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学 計24校

I. 協議事項

1. 2023年度FD・SD委員会事業自己評価について (資料1)
2. その他

II. 報告事項

1. 2023年度事業の進捗状況について (資料2)
2. その他

III. 懇談事項

1. 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について (資料3)
2. FD・SD事業に関するニーズ調査について (資料4)
3. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2023年度のFD・SD委員会開催予定と主な議題について
第4回委員会 2月：2024年度 事業計画・予算（案）
第5回委員会 3月：2023年度 事業報告・決算（案）
2. その他

以上

<資料一覧>

資料1：2023年度 FD・SD委員会事業 自己評価（案）

資料2-1：「中退予防におけるIR」（仮題）チラシ（案）

資料2-2：「内部質保証システムの実質化を考える」（仮題）セミナー企画書（案）

資料3：大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

資料4：「FD・SD事業に関するニーズ調査」アンケート（案）

別添1：加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開 実績一覧（2023年4月～10月）

委員長校 : 甲南大学

副委員長校: 神戸市看護大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学 計24校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

<内容>

1. 加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。
・「大学運営」に関する科目の受講支援等

2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。
・FD・SDトップセミナー等

以上の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5か年において段階的に取り組む。期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		予算額
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

【2023年度 FD・SD委員会 自己評価(⑥取組1)】

【⑥取組1】達成目標	各年セミナー5件以上			
【⑥取組1】活動指標	参加者数100人以上/年			
課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標【⑥取組1-1】	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。			
課題を解決する取組概要【⑥取組1-1】	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開			
活動指標【⑥取組1-1】	参加者数100人以上/年			
内容 (結果)	<p>「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、以下の通り計画・実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 情報収集 Webフォームにて、加盟校のFD・SDセミナー(学外公開可のもの)の情報収集を通年で行った。 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行った。 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求めた。 <p>【結果】2023年10月30日現在、6校13件の公開セミナーに対して、1,176名の参加があった。 詳細は以下の通り、学校名(50音順)・公開件数・開催日時・セミナー名・参加者数・内訳で明記。</p> <p>■大手前大学(1件) (1)2023年9月1日「ICT活用推進シンポジウム」174名 (学内124名、加盟校1校1名、他大学5校6名、その他43名)</p> <p>■関西学院大学(1件) (1)2023年8月31日「大学の授業と著作権について」173名 (学内29名、加盟校11校24名、他大学81校118名、その他2名)</p> <p>■神戸学院大学(6件) (1)2023年4月28日「学生を評価主体として育成するためのルーブリックの活用」55名 (学内39名、加盟校10校15名、他大学1校1名) (2)2023年6月9日「自学自習を促すシラバス作成法」計28名 (学内20名、加盟校6校6名、その他1校2名) (3)2023年7月7日「大学における人間関係と教員の役割」計34名 (学内29名、加盟校4校4名、その他1校1名) (4)2023年9月4日 神戸学院大学薬学研究所主催令和5年度「知の創造セミナー」計54名 (学内53名、その他1名) (5)2023年9月5日「これからの高大社接続を考える～アフターコロナの観点から～」計43名 (学内38名、加盟校2校3名、他大学1校1名、その他1名) (6)2023年9月30日「専門職連携教育(Interprofessional Education) 5周年記念シンポジウム これからの専門職連携教育を考える」158名 (学内150名、加盟校1校2名、その他6名)</p> <p>■神戸松蔭女子学院大学(3件) (1)2023年8月7日「大学教育におけるPBLの開発に向けて」70名(学内64名、加盟校4校4名、他大学1校2名) (2)2023年9月8日「学生の主体的な学びを促す動画教材」62名(学内62名) (3)2023年9月8日「課題解決型授業から課題解決授業へ」64名(学内64名)</p> <p>■神戸親和大学(1件) (1)2023年8月24日「Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について」139名 (学内63名、加盟校15校76名)</p> <p>■神戸堂盤大学(1件) (1)2023年9月11日「これからの時代に応じた大学入試や大学改革の方向性を探る」122名 (学内114名、加盟校6校8名)</p> <p>3)FD・SDセミナーの実施内容に関するアンケートを実施。 引き続き、加盟校のニーズに合うセミナーの公開と、参画校の拡充に取り組む。 2023年12月～にアンケートを実施予定。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	FD・SDセミナーの公開実施校が実績(参加者数)を報告する「実績報告フォーム」のWebフォームの入力項目を整理することで、自学以外の加盟校の参加状況を集約・報告しやすい形式に整えた。			
事業収支	収入 0円	支出 0円	収支 0円	
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	前年度(2022)通年実績6校13件に対して、今年度は期中(10月末)で、すでに6校13件の情報提供があった。本取組についての加盟校での認知が広がり、一定のニーズがあると考えられるため、本プログラムは継続すべきと考える。			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの
改善提案
(次年度事業計画に反映)

【2023年度 FD・SD委員会 自己評価(⑥取組2-1)】

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上			
【⑥取組2】活動指標	FD・SDセミナー開催数3回以上/年			
課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標【⑥取組2-1】	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。			
課題を解決する取組概要【⑥取組2-1】	加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催			
活動指標【⑥取組2-1】	開催数1回以上/年			
内容(結果)	<p>大学教育等に関する講演会等の開催</p> <p>■セミナー名「いま一度整理しよう！令和4年度大学設置基準等の改正を学ぶ！」</p> <p>■日時:2023年9月6日(水)14:00~16:30</p> <p>■場所:甲南大学岡本キャンパス 1号館131講義室 ※加盟校職員以外は第1部オンライン参加のみ</p> <p>■講師:文部科学省高等教育局視学官(併)大学教育・入試課 課長補佐 中村 慎太郎 氏</p> <p>■内容:2022年10月より大学設置基準等の改正が実施されたが、改正内容への対応等に苦慮する大学も多々あることが想定されることから、基本的な改正要旨や概要から、主要授業科目、基幹教員、教職協働の促進などの個別テーマにも焦点をあてた講演と意見交換会を2部制で開催した。</p> <p>第1部:基調講演「令和4年度大学設置基準改正について」 講師の中村氏より、「1.グランドデザイン答申等について」「2.大学設置基準等の改正について」「3.今後の教職協働の在り方について」の3点に関する説明と、参加者からの事前質問に対する詳細な回答がなされた。加盟校を中心にオンライン参加を含めて全国各地から130名の参加があった。</p> <p>第2部:質疑応答・意見交換会 ※会場参加者のみ 講師の中村氏と加盟校教職員のみで、質疑応答及び意見交換を行った。自学の実情を踏まえた具体的な質問や日々の業務上での疑問点について、率直な意見交換が行われた。</p> <p>■参加者:総計130名(会場87名、オンライン43名) (内訳)加盟校18校75名 芦屋大学(1)・大手前大学・大手前短期大学(6)・関西学院大学(3)・甲南大学(28)・神戸学院大学(1) 神戸市外国語大学(5)・神戸市看護大学(3)・神戸松蔭女子学院大学(6)・神戸常盤大学(1) 神戸親和大学(3)・神戸大学(3)・神戸薬科大学(1)・園田学園女子大学(3)・兵庫大学(6)・ 兵庫教育大学(1)・兵庫県立大学(3)・流通科学大学(1) 非加盟校37校45名、企業・団体4団体4名(内訳)文部科学省(1)・神戸市地域労働局(1)・河合塾(1)・ 内田洋行(1)、コンソ事務局6名</p>			
新しい試み等(事業計画に記載)	第一部は、オンラインと対面会場のハイブリッド形式で、時間的制約で参加できない加盟校教職員の参加機会を考慮し、広く内容を公開する形式で行った。また、加盟校の課題等を講師とダイレクトに忌憚なく相談できる機会を設けるため、第二部については対面参加の加盟校教職員のみとする形で実施した。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	500,000円	32,644円	467,356円	取組2-1、2-2 の合計(10月31日現在)
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	<p>本セミナーの参加理由に、「大学運営にあたり改めて理解を深めたい」など、業務遂行上の必要性、実践的な学びを深めることへの関心があった。加盟校に限定した文部科学省担当者との対面での質疑応答では、「他大学様も本学と同じような疑問等を持っておられたので、大変勉強になった」等、加盟校でセミナーを実施する意義が伺えた。実施アンケートからも引き続き、「時宜を得たテーマを希望する」といった意見が挙がっており、本プログラムは継続すべきと考える。</p>			
	<p>■自己評価基準(対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った</p>	<p>■自己評価基準(対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき</p>		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				

【2023年度 FD・SD委員会 自己評価(⑥取組2-2)】

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上			
【⑥取組2】活動指標	FD・SDセミナー開催数3回以上/年			
課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【⑥取組2-2】	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。			
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-2】	加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催			
活動指標 【⑥取組2-2】	FD・SDセミナー等開催数2回以上/年			
内容 (結果)	<p>「内部質保証システム」をテーマとしたFD・SDセミナーを開催し、加盟校での啓発活動を行うと共に、実務的な勉強会を実施予定である(2023年10月31日時点での報告)。</p> <p>【1件目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー内容:「内部質保証システムの実質化を考える ～現場が動き出す！工夫と実践～(仮)」 ・講師: 鳥田 敏行 氏(茨木大学 全学教育機構副機構長・教授) 山咲 博昭 氏(広島市立大学 学長付講師 大学評価オフィス) ・開催日時: 2023年2～3月予定 ・開催方法: オンライン(Zoom) <p>【2件目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー内容:「中退予防におけるIR(仮)」 ・講師: 白鳥 成彦 氏(嘉悦大学 経営経済学部 教授) ・開講日時: 2024年2月20日(予定) ・開催方法: 甲南大学(予定) 			
新しい試み等 (事業計画に記載)	本年度当初に各校委員にテーマと講師候補者に関するアンケート調査を行い、そのニーズや意見を反映して加盟校教職員の知見や助言を生かしながら、テーマ・講師選定を行うことができた。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	500,000円	32,644円	467,356円	取組2-1、2-2 の合計(10月31日現在)
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	現時点では(2023年10月31日)、本取組は計画通りに進んでおり、年初のアンケート回答からも内部質保証セミナーに関するニーズは一定数あると考える。また、加盟校教職員の中にもテーマに応じて、協力いただける状況が生まれているため、本プログラムは継続すべきと考える。			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき	
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)				

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SDセミナー（案）

「中退予防におけるIR」

大学コンソーシアムひょうご神戸では、従来より内部質保証やIR等に関するセミナーを開催してきましたが、今回は“中退予防におけるIR”という観点でセミナーを開催いたします。

学生生活不適応、修学意欲の低下、学力不振、新型コロナウイルス感染症に代表される社会的情勢の変化による経済的困窮など理由はさまざまであるが、大学を中退する学生は毎年一定数存在する。各大学におかれては、そのような学生に早期に気づき、適切な対応を行うことで中退を未然に防ぐ取り組みが課題となっている大学も少なくない。そこで、今回は中退防止施策を長年研究されている白鳥先生をお招きして、IRの観点から中退予防という課題について考える。

会場定員50名

参加
無料

2月20日(火) 14:30～16:30

甲南大学岡本キャンパス5号館 523講義室

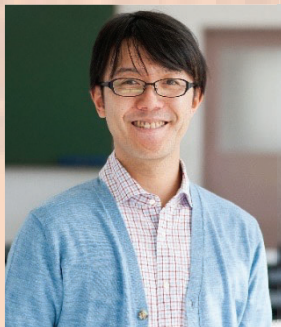
参加対象

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員

QR
コード事前申込はこちらのQRコード
からお願いいたします。

講師

白鳥 成彦 先生



嘉悦大学 経営経済学部教授 兼 IR・データインフラ推進室室長

2009年3月慶應義塾大学 政策・メディア研究科 後期博士課程単位取得退学、
2023年東京工業大学 環境・社会理工学院修了、博士（工学）。
2009年より嘉悦大学に所属。高等教育機関におけるデータをもとにした中退防止施策を研究テーマにしている。競争的資金として、「中退防止施策の介入効果を把握する中退予測モデルの開発」、「大学における中退防止を目的とした教育サービス評価モデルの提案」、「教学データに学生の学内外の人間関係データを組み込んだ中退予測モデルの開発」等を受けて研究を進めており、大学における中退がなぜ起きるのか、中退をどのように防止できるのかを考え、データサイエンスと人工知能研究をベースにおいた教学施策、中退防止施策の実践を行っている。

【お問い合わせ先】

主催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会（甲南大学FD委員会共催）

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館1F

E-mail：info@consortium-hyogo.jp

TEL：078-271-0233

URL：<https://consortium-hyogo.jp/>

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SDセミナー
「内部質保証システムの実質化を考える」セミナー企画書（案）

テーマ：内部質保証システムの実質化を考える
～現場が動き出す！工夫と実践～」（仮題）

概要・目的：

認証評価等において、近年内部質保証が重視されている一方で、加盟校において状況は様々でありながらも、内部質保証の体制作りから実質化まで、様々なフェーズで対応に苦慮されていることが想定される状況である。内部質保証に関して加盟校の教職員を対象とするセミナーを実施する。

講演では、①内部質保証の体制の整備の工夫（教学IRの整備を含む）、②内部質保証の機能の実質化の工夫（自己点検・評価を改善につなげる工夫、教学IRの取組を含む）等の観点にて、優良事例・実践・実務面等から、知見を提供いただく。

セミナー内容：

第1部：講演（大学の内部質保証の実情を熟知されている講師2名による講演）
（講師候補）

- ・山咲 博昭 氏（広島市立大学 学長付講師 大学評価オフィス）
- ・鳶田 敏行 氏（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構研究開発部 教授
前・茨木大学 全学教育機構副機構長・教授）

第2部：対談（第1部の登壇講師2名による対談と質疑応答）
（ファシリテーター）

- ・高田 英一 氏（神戸大学 戦略企画室 准教授、
大学基準協会 大学評価研究所研究員）

開催日時（調整中）：

2024年2月～3月、3時間程（予定）

以上

大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について
 ~コンソの認知・イメージアップ施策検討用「加盟校教職員へのアンケート調査」に向けて~

7月企画運営委員会

コンソの目指す姿

~多様なメンバーが 学校を超えて フラットに学び合い 繋がる~

「Diversity, Equity & Inclusion」

ビジョン 大学間連携・産官学連携で

「人が繋がり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

戦略

- ①情報共有と発信
- ②人的交流の促進
- ③ステークホルダーとの有機的連携

外部環境

内部環境

市場機会の特定

セグメンテーション
 ターゲティング
 ポジショニング

マーケティングミックス

プロダクト・プライス・プレイス・プロモーション

※実行・モニタリングでPDCA回す

2022年度
 策定

2023年度
 策定

中長期計画Ⅱ期（柱4）

「加盟校が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築」

【アンケート目的】

教職員・学生・地域社会のステークホルダー等に対するコンソの認知度向上、イメージのアップのため
 の事業設計、広報活動等に生かすため

【アンケート活用】

- 現状把握することで今後の効果的な情報発信施策に活用
- 理想ターゲット層を増やす施策の立案

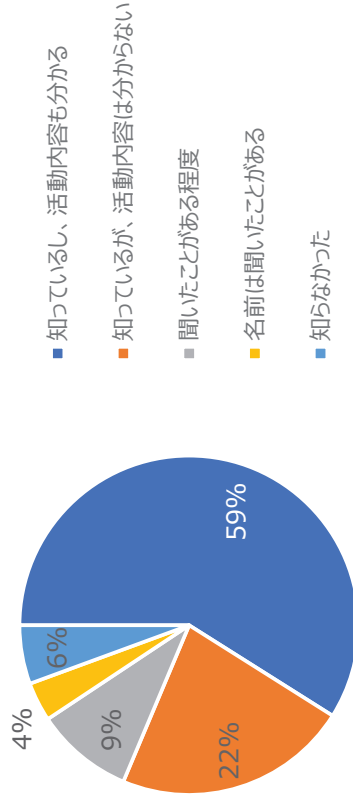
※ターゲットペルソナのカスタマイザー（別紙参照（お手紙時にお目通し下さい））



【成果】※短期目標は10月末

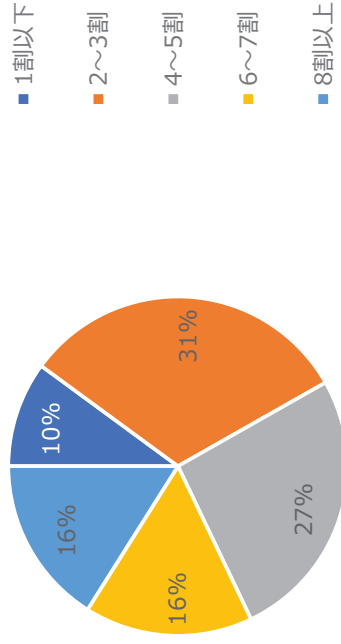
- 市場機会を特定し、（神戸PF等との差別化
- ステークホルダーにおけるコンソの認知・理解・関与を高める

教職員における大学コンソーシアムひょうご神戸の認知



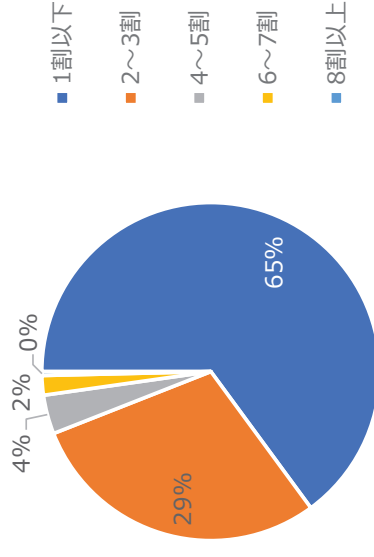
- 職員・教員におけるコンソ認知は81%、理解度は59%。想定より認知されている状況。
- 特に一般職員の課長以下には、一定の認知があると言える（合計38%）
また教授も合計17%認知されており、“知っている人は知っている”状態。

自大学の「職員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



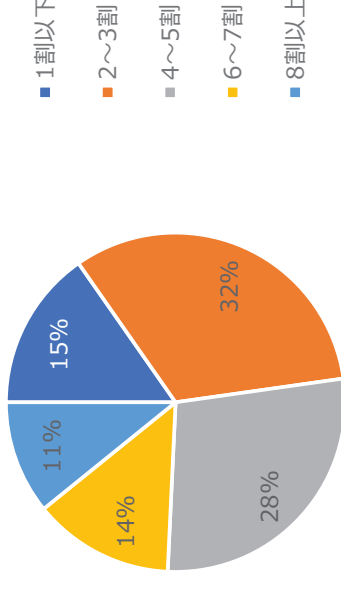
- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（26%）。多くはないが、一定数の職員が知っていると感じている。

自大学の「学生」の何割が、コンソを認知していると思うか？



- 過半数となる65%の人が「1割以下」と回答。
自学の学生には10%も知られていないと認識されている。

自大学の「教員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（28%）。多くはないが一定数の教員が知っていると感じている。

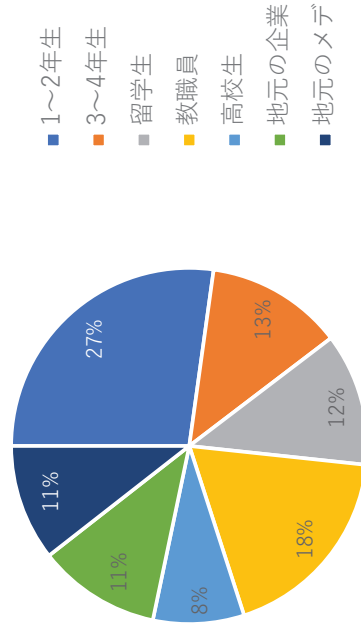
アンケート結果まとめ②

コンソの強み・特長と思うもの

加盟大学数	121	13%
加盟大学の合計学生数	48	5%
留学生ネットワーク	57	6%
留学生支援の実績	62	7%
キャリア支援の実績	41	4%
大学間の交流	178	19%
イベントの企画力	63	7%
地元企業とのつながりが深い	71	8%
産学連携の実績	77	8%
高大連携の実績	32	4%
FD・SDの実績	42	5%
加盟大学の教授や学生、OBOGの活用	25	3%
加盟大学とつながりがある企業やスポーツチームなどの活用	28	3%
官公庁とのつながり	68	7%

913

コンソの認知アップのため、どの層をターゲットにすべきか



- 「1～2年生」を優先すべきとの声が多い。「3～4年生」向けの声を挙げる声は限定的。
- 「総合大学の教職員」を挙げる声が多く、いかに総合大学との交流を広げるか、リソース活用ができるかが1つの鍵と言える。

コンソのイベントの告知などは、どこで行われているか

学生向けホームページ	92	15%
留学生向けホームページ	22	4%
一般公開している大学のホームページ	79	13%
学生向けにメール送信	86	14%
留学生向けにメール送信	29	5%
学内の掲示板	161	27%
キャリア支援センター内の掲示板	35	6%
大学の公式SNS	26	4%
授業内で告知	15	3%
その他	55	9%
	600	

アンケートのまとめ

教職員には一定認知があるが、加盟校学生の認知は10%未満。
⇒ **学生の認知と利用促進を高めるべき!**

- ・「大学間の交流」「加盟工数」が強みと認識されているが、他は強みとしての認知が弱い。具体的なメトリックベースでない。
- ・「加盟大学の教授や学生、OBOGの活用」「加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用」等を活用できていない
⇒ **強みをより活用し、効果的・効率的なアピールをすべき**

対象学生は、1～2年生ないし高校生向けに高校生向けに行うべき
⇒ **ニッチターゲットではなく早期学生からの取込みを狙うべき**

コンソの取組の告知は、掲示板や学内向け/一般向けホームページが主となり、「それ以外にない」感がある。
⇒ **SNSなど、学生にもっと伝わるチャネル活用を!**

加盟校の課題

9月企画運営委員会

- どの大学も共通するのは、入学者の確保、資金調達が主。
- 中小規模の大学に追加で共通して入るのは、認知やブランディングが低い、事務スタッフ不足。
- どの大学も喫緊の課題を抱えており、なんとかやりくりしている現状が見られる。

コンソ参画のメリット

- メリットとして共通するのは、学生の交流（他大学の学生やナレッジ等）
スタッフ目線では、職員同士の横のつながりや、研修などによる知識の補完が挙げられた。
- 私立の中小規模大学は、補助金採択のメリットも挙げられていた。
- 挙げられたメリットは教科書的なものも多く、実感値のある効果、課題解決につながるものかという意味では補助金の件を除くと、あまりないのが実情と言える。

コンソへの理想

- 全体的に、コンソへの理想像、希望はあまり挙げられなかった。
- 声としては、職員研修などスタッフ不足の解決が多く、中長期のゴールというより身近な課題解決であった。
- メリットの平等性や、大学同士がライバルでもあることから、大きく活用できる組織という認識されてない。「明確なメリット」の成功事例を作り、増やし、認識を変えることが重要。

<加盟校のメリットにつながるコンソの役割>

≡コンソのプレゼンス向上につながる取組みの方向性

1. PR・プロモーション

…各大学の認知度の向上・PR強化が入学生の確保や外部資金の調達に繋がること。

- ①学生によるSNSアカウント運用 ②共同開講

アンケートでも必要性は
示されていたもの

2. 学内業務の効率化

…若手職員に対して研修や、ナレッジの共有や機会提供、緊急時対応など

- ①FD・SDの共通化 ②共同調達 ③大学で働く契約職員の人材紹介

新たに必要性として
検討すべきこと

3. 外部資金の調達

…補助金や企業等から外部資金を獲得すること

- ①補助金・助成金サポート

<補足>

「学生同士の交流」「学生の学びの幅を広げる」ことは、一定できている、ベースとしてある認識。=事業として最低限の位置づけに近い。ここを担保した上で、出資者である加盟校が実感値としてのメリットを感じる必要がある。

2023「FD・SD事業に関するニーズ調査」大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会

大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」）では、中長期計画II期の事業計画に基づき、2022年度より「加盟校でのFD・SDセミナーの公開」「大学教育等に関する講演会」「内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー」等の事業を実施しています。

当委員会では、次年度以降の事業推進ならびに、資料2「大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について（10月企画運営委員会・コンソ活性化の方向性）」にある「FD・SD共通化」等を検討するにあたり、コンソ加盟校の「FD・SD事業に関するニーズ調査」を実施いたします。つきましては、各加盟校にてご回答の程、よろしくお願いいたします。

* 必須の質問です

1. メールアドレス *

2. ご所属 *

3. お役職 *

4. お名前 *

5. Q1-1 次年度以降の「加盟校でのFD・SDセミナーの公開」「大学教育等に関する講演会」等の事業計画において、取り上げて欲しい研修・セミナーのテーマについて、貴学が希望する内容をご記入ください。

例：生成系AI、大学運営、内部質保証、危機管理etc

6. Q1-2 上記を希望する理由を簡単でよいので、おきかせください。

例：本学ではデジタル系の専門教員がいないため、大学業務の観点から必要な情報を得にくい。また、若手職員や未経験者を対象に、担当実務に役立つセミナーを公開いただけるとありがたい。

7. Q2-1 FD・SD研修において、貴学が他の加盟校と「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアやついて、自由にご記入ください。人事研修（階層別・テーマ別）も含む。

例：内部質保証・IR・リスクマネジメント・〇〇に関する若手職員研修

8. Q2-2 上記の理由を簡単で良いので、自由にご記入ください。

例：いずれの分野も、複数業務を兼務する経験の浅い職員が少数で対応しているため、同様の職務に従事している他大学の方や専門職の方と研修・交流することで、大学業務に対するモチベーションの維持やスキルアップにつながる効果が期待できると考えるため。

9. アンケートは以上です。その他、ご意見・ご質問などあれば、自由にお書き添えください。ご回答ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

2023年度 FD・SD委員会事業実績一覧① 取組1・取組2 2023年4月～10月

No	大学名	セミナー名	開催日	加盟校数	加盟校教職員	非加盟校教職員	その他	コン/事務局	実績	
取組1-1 加盟校間でのFD・SDセミナーの公開										
1	大手前大学 大手前短期大学	ICT活用推進シンポジウム	9/1	2	125	6	43		174	
2	関西学院大学	大学の授業と著作権について	8/31	12	53	118	2		173	
3		学生を評価主体として育成するためのルーブリックの活用	4/28	11	54	1			55	
4		自学自習を促すシラバス作成法	6/9	7	26	2			28	
5		大学における人間関係と教員の役割	7/7	5	33	1			34	
6	神戸学院大学	知の創造セミナー	9/4	1	53		1		54	
7		これからの高大社接続を考える～アフターコロナの観点から～	9/5	3	41	1	1		43	
8		専門職連携教育(Interprofessional Education) 5周年記念シンポジウム これからの専門職連携教育を考える	9/30	2	152		6		158	
9		高等教育におけるPBLの開発に向けて	8/7	5	68	2			70	
10	神戸松蔭女子学院大学	学生の主体的な学びを促す動画教材	9/8	1	62				62	
11		課題解決型授業から課題解決授業へ	9/8	1	64				64	
12	神戸親和大学	Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について	8/24	16	139				139	
13	神戸常盤大学	これからの時代に応じた大学入試や大学改革の方向性を探る	9/11	7	122				122	
				合計	73	992	131	53	0	1176
取組2-1 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催										
取組2-1	大学コンソーシアム0ようご神戸主催	大学コンソーシアム0ようご神戸 FD・SDセミナー いま一度整理しよう！ 令和4年度大学設置基準等の改正を学ぶ！	9/5	17	75	45	4	6	130	
				合計	17	75	45	4	6	130

